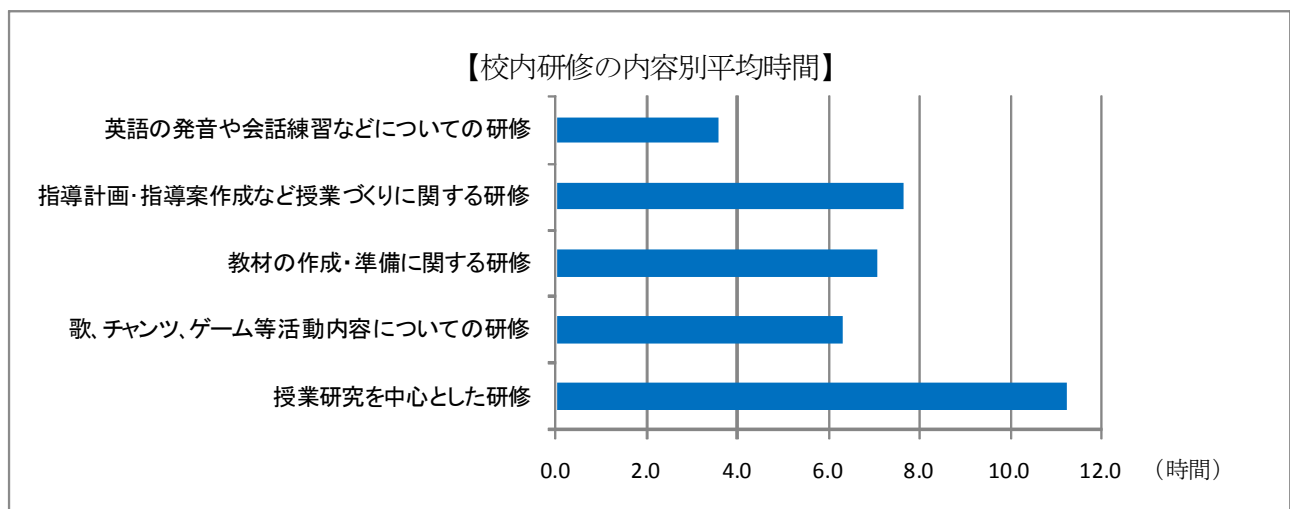


外国語活動の円滑な導入に向けた校内研修の状況

先般実施しました教育課程編成・実施状況調査における外国語活動の校内研修実施状況(予定を含む)がまとまりましたので、その一部を紹介します。

外国語活動の全面実施に向けては、平成20年度から平成22年度末までに30時間程度の校内研修を実施するようにしていますが、県内平均では約35時間の校内研修が実施されており、内訳は下記の表のとおりです。全面実施まで約5か月になりました。各学校においては、円滑な実施に向けて、準備をしっかりと進めていただきたいと思います。



校内研修(授業研究会)における授業の様子を紹介します

平生町立佐賀小学校及び防府市立富海小学校の校内研修に参加しました。

その時の授業の様子及び、外国語活動の授業を展開していく上での、留意点等について紹介をします。

【平生町立佐賀小学校 9月15日(水)】

学 年：6 学年 (児童9名)

教 材：英語ノート2 Lesson5「道案内をしよう Turn right.」4 / 4時

指導者：6年担任 伊 東 貴 之 教諭



建物等の英語の言い方について、アメリカの写真を見せながら教師が発音することにより子どもたちが話しやすくする雰囲気をつくっておられました。子どもたちは、大きな声で元気よく発音していました。実物や写真を見せることは子どもたちの興味・関心を喚起する上で大変有効です。その後、子どもたちは班ごとに建物の言い方を練習しましたが、リーダーの子どもからの指示に従って自主的かつ積極的に練習していました。日頃

の学級経営が充実していると感じました。外国語活動では、人前で発表したり、ゲームなどの活動が多いため日頃の学級経営が大変重要です。

道案内は自然な形でコミュニケーション活動を仕組むことができ、様々な展開ができます。今回は段ボールに建物の絵を貼って、立体感を出すとともに実際に街角の風景を提示する配慮がされていました。また、目的地に到着すると宝がもらえるという意欲付けがされていました。子どもたちは、楽しみながら道案内をしていました。

外国語活動では、絵カードを始め多くの教材が必要になります。担任一人で作成すると大変ですので、全面実施までに全教員が協力して必要な教材を作成・準備しておくことが大切です。そのことを通して、より多くの先生方に外国語活動に関わってもらうことができます。

道案内は会話をする必然性のある活動ですが、外国語活動で子どもたちにコミュニケーション活動を仕組む場合、会話をする必然性があるかどうかについて留意することや、場面設定が重要です。特有の表現がよく使われる場面と児童の身近な暮らしにかかわる場面の2つが考えられます。

【防府市立富海小学校 10月6日(水)】

学 年：2学年(児童13名)

教 材：独自の教材「Who Stole the Cookie?」3/3時

指導者：2年担任 郡 司 徳 子 教諭



富海小学校では、文部科学省指定の研究開発学校として1学年から外国語活動に取り組んでいます。

今回の授業研究会では、第2学年の授業が公開されました。授業の最初に、担任が一人ひとりの子どもに英語で挨拶をしました。子どもの返答に、適宜英語や日本語を交えて受け答えがされました。授業の最初のあいさつや様子を尋ねるやりとりは、決まった表現を言い合うだけでなく、子どもの返答に一言、英語で添えるとコミュニケーションらしさが出ます。2年生は、5・6年生のように英語ノートがありません。そのため、“Who Stole the Cookies?”という絵本を教材にして、“Who”を使った受け答えに慣れ親しむ授業(※授業では“stole”を“took”に置き換えて指導)が展開されました。絵本の内容に沿った歌は1文の語数が多く2年生には難しいと思いましたが、繰り返しがありリズムカルで、子どもたちは既に覚えており、元気な声で歌っていました。歌やチャンツは、一度聞いたら耳に残るようなリズムカルで適度に繰り返しがあるものが最適です。また、表現に慣れるために、子どもたちとともにオリジナルのチャンツを作成することも有効です。主活動は、箱の中にクッキーや果物等の絵を入れておき、誰がクッキーを取ったかを、英語を使って当てる活動です。子どもたちは、嬉々とした表情をして英語で受け答えをしていました。子どもたちに活動やゲームをさせる場合、思わず尋ねたり答えたりしたくなるような活動を仕組むことが肝要です。

また、中学校の英語の先生も参加しておられました。全面実施に向けて、中学校の先生方に小学校の外国語活動の様子を見てもらい、小・中学校が連携して指導を工夫することも大切です。